

イタリアでの学びを生かした 体験型農園支援の提案

(現地調査型行政課題研修(海外)成果発表)

緑園に輝くまち 多久

～時流を感じる 文教・安心・交流・協働のまち～



多久市観光キャラクター『多久翁さん』

⑧ 佐賀県多久市
Taku city

0



目次

1. 多久市農業の課題
2. イタリアでの学び
3. 施策の方向性
4. 施策提案・事業の流れ
5. 事業の効果
6. まとめ



はじめに（結論）

「農業の多角化」と「関係人口の創出」を図る⇒体験型農園支援



入口として、酒米づくり体験 × 日本酒づくり体験を実施

モデル事業



モデル事業で得られた仕組みやノウハウを生かし、
市内農家の体験型農園実施への支援を段階的に広げていく



2

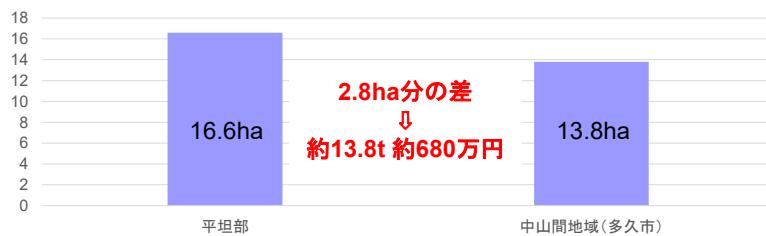
佐賀県多久市
Taku city

2



I. 課題 農業収入の限界

同機械(コンバイン5条刈)での地域別作業可能面積(ha)



資料：佐賀県特定高性能機械導入計画より

【中山間地域】

平坦部と山間部の間に位置し、傾斜地や狭い農地、不整形の農地が多く、生産条件不利な地域
構造的・地形的制約により
日本で主流の効率化や規模拡大による収入拡大は期待できない

農業の多角化を進め、新たな収入を生み出す視点が不可欠

3

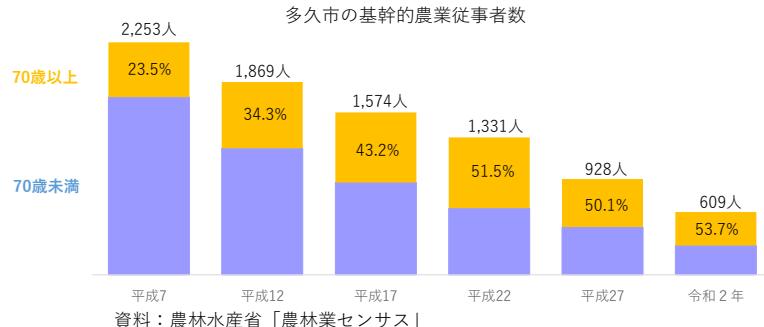
佐賀県多久市
Taku city

3

2



I. 課題 農業従事者数の減少（農業の魅力低下）



高齢化により年々辞める人が多數にもかかわらず、新規就農者が少ない
原因は、大変そう、難しそう、収入が不安定などのマイナスイメージ

農業に関わる人、農業を応援する人を増やし、将来的な担い手に繋げていく必要がある

4

佐賀県多久市
Taku city

4



2. イタリアでの学び 農業の多角化

- ・「農業+体験」「農業+加工」「農業+宿泊・食育」など複線化
- ・農業=作物の生産販売だけではなく、作物に宿るストーリーや背景などを多様なコンテンツに変えて価値を見出し、売り出すことで多くのファンを獲得していた

複数の収入源を持つことで、経営の安定とやりがいにつながっていた



5

佐賀県多久市
Taku city

5



2. イタリアでの学び 日常の価値化

・アルベルゴ・ディフゾー ※写真右中
廃村をそのまま分散型ホテルにして宿泊と郷土料理を提供



・マッセリア・ディダッティカ ※写真右下左
昔ながらの家(マッセリア)を活用した食育活動



・アグリツーリズモ ※写真右下右
宿の提供と併せて普段の農作業や郷土料理を体験として提供

**特別なことをしているわけではなく、
地域の日常を「丁寧に見せる」ことで価値にしていた**

【プーリア州政府】

農業の多角化やマッセリアディダッティカ、アグリツーリズモが体系的に推進されており、行政施策として確立

6

 佐賀県多久市
Taku city

6



3. 施策の方向性

① 日常を「体験」に変える

- ・イタリアでは、特別なことではなく普段の農作業や暮らしそのものを価値にしていた
- ・多久市でも、農業の日常を体験として見せる

② 体験を「収入」に結びつける

- ・作物の生産・販売だけに頼らない
- ・体験料という形で新たな収入源をつくる



【体験型農園支援】

③ 小さく始めて、広げていく

- ・まずはモデル事業で検証
- ・成果やノウハウを市内農家へ段階的に展開

7

 佐賀県多久市
Taku city

7



4. 施策提案 酒米づくり×日本酒づくり体験



「純米大吟醸 多久」

ヒント！

- ・地域団体×東鶴酒造の共同製造
- ・米、水とともに多久産を活用
- ・酒米専用品種を使用せず、食用米を原料としている
- ・市内外にファンがいて、人気が出てきている

【酒米専用品種】

倒伏しやすい、栽培管理繊細、天候技術の影響受けやすい→難しい
【食用米用品種】

多くの農家が日頃から栽培→**体験用酒米として最適**

【酒米づくり】

食用米の田植え・稲刈りを体験



【日本酒づくり】

米が日本酒になる工程を体験



【自分が関わった日本酒】

として完成を迎える！



8

佐賀県多久市
Taku city

8



4. 施策提案 事業の流れ（モデル事業）

①
酒蔵と協議

②
体験提供農家
募集・選定

③
面積・内容・日程
調整

④
体験者
募集・受付
※HPにて

⑤
体験実施
酒米づくり体験
日本酒づくり体験

⑥
参加者
アンケート

1月～2月にかけて①から順に終わらせる

3月～5月中旬

※昨年実績 酒米1380kg 23俵(1俵60kg)
1升瓶→400本 720ml瓶→2000本
23俵を生産するのに必要な面積→約3,300m²
3戸の農家で体験実施を想定→約1,100m²×3戸
約1,100m²だと1グループあたり15人前後がベスト

酒米づくり体験
6月中 田植え
10月中 稲刈り

日本酒づくり体験
11月初旬 仕込み
12月初旬 瓶詰め
12月上旬 ラベル貼り

全体験終了後

体験者にメール
でアンケートフォームを
送付し、回答して
もらう

9

佐賀県多久市
Taku city

9



4. 施策提案 体験料の考え方

【体験料の考え方】

- ・最終的には完成した日本酒を持ち帰れる内容を想定
- ・一連の体験内容と提供する日本酒を含めて設定することを想定

農業と加工、完成品までを一体で体験できる価値を体験料として整理することで、参加者の納得感を高めるとともに、農家にとっても収入につながる仕組みとする

体験料内訳(想定) 1人当たり			
区分	内訳項目	内容	金額
農家分	圃場・酒米管理費	体験用圃場の提供、酒米生産管理	3,000
	農作業体験対応費	田植え1回、稲刈り1回の受入、作業指導、説明、調整	4,700
農家分 小計			7,700
保険	農作業体験保険料	農作業体験時のみ加入(レクリエーション保険等)	300
酒蔵分	酒蔵対応人件費	見学・解説対応、体験受入に伴う人件費	4,000
	見学・体験対応費	見学同線確保、説明対応、受入準備	2,000
	ストーリー・解説対応	酒米から日本酒になる工程説明、体験価値の提供	1,000
酒蔵分 小計			7,000
成果物	日本酒代	例 多久酒720ml(2,860円/本) × 2本(体験成果物)	5,000
合計			20,000

10



Taku city

10



4. 施策提案 体験型農園支援への段階的展開

日本酒づくり体験を通じて得られた運営や事務の仕組みを整理し、他の作物や農家にも段階的に展開



市→制度設計や事務支援 農家→現場の運営

まずは小さくはじめ、成果や課題を確認しながら、体験型農園の取組を市内に広げていく

11



Taku city

11



5. 事業の効果

1. 農業の多角化

- ・体験料などの**新たな収入源を確保**することで、**経営の安定化と農業へのやりがい向上**につながる

2. 関係人口の創出

- ・農業に関わる人が増えることで、**将来的な担い手確保**や、農産物・加工品の**販路拡大**につながる

3. 体験型農園の拡大(将来的効果)

- ・本事業を継続的に実施することで、体験型農園に取り組み農業者が増加し、**多様な体験メニュー(農泊や料理体験等)**を持つ農園が**市内に広がっていくことが期待される**

12

 佐賀県多久市
Taku city

12



6. まとめ

- ・イタリアで多く見た「**日常を価値に変える**」という考え方ヒント
- ・日本農業は、生産販売のみがほとんど(価値化するのが下手)
- ・まだこの考え方が浸透していない日本だからこそ、**可能性は無限大**
- ・日本酒づくり体験を入口として、体験型農園支援を段階的に広げることで、農業の多角化と関係人口の創出を図り、持続可能な農業の実現につなげていきたい



13

 佐賀県多久市
Taku city

13